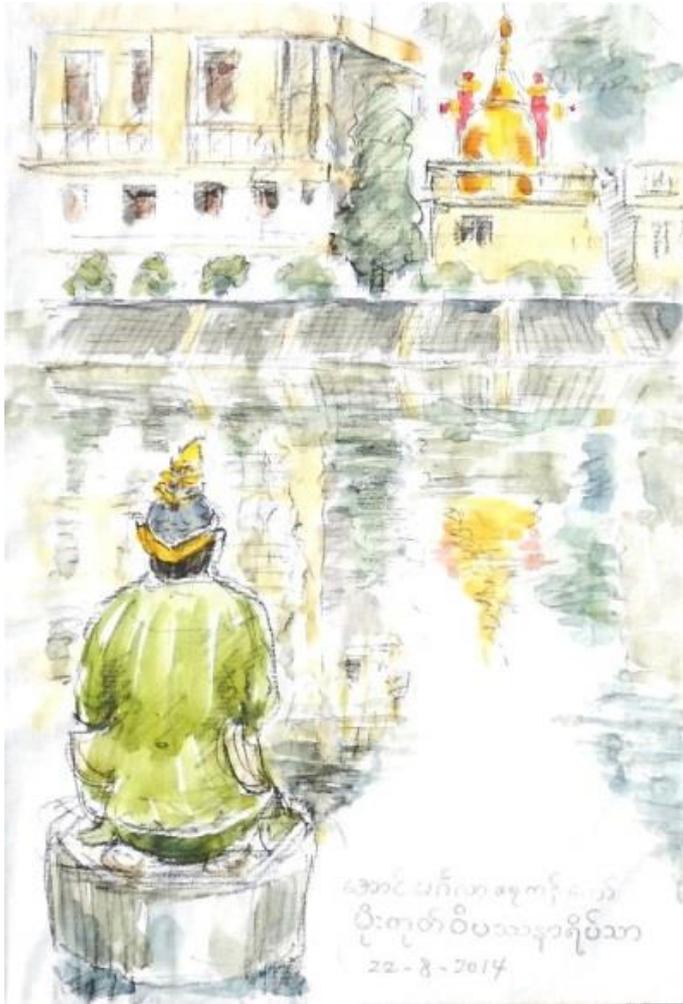


ヤンゴン素描 No. 30

山形洋一

アウンサン町 縫製工場と結核病院

植民地時代はシングーSin Ngu 駅と呼ばれ、西に軍用飛行場があったが、現ミンガラドンに移された。駅のすぐ西は塀で目隠しされている



ポカン駅からアウンサン町駅まで、0.9 キロメートルしかない。人口希薄な地域でこの至近距離に駅が二つ置かれたのは、鉄の町ポカンに対して、アウンサンは繊維の町ということらしい。アウンサン町駅近くには、中小の縫製工場がある。

アウンサン駅の北東約1キロメートルにあるアウンサン市場は大きく、その活力のほどは、正面にサイカーゲイトだけでなく、荷物運搬用のガリーのゲイトもあることから推測できる。ポカン駅の東500メートルにある「パデター」市場の、その名のとおり「万屋、よろずや」並みの品揃えと対照的だ。

大通りから東へ、櫛の歯状の道が丘に登っている。櫛の歯の先には結核療養所や保健技術学校などがあるほか、豪壮な門を閉ざして、その奥で何をしているのか全くわからない施設がいくつもある。まるで江戸川乱歩の小説世界で、突然通用門からがっしりした男が出て来て、秘密の研究所に連れ込まれてしまいそうだ。不気味さを我慢して、櫛の歯を行きつ戻りつし

ていると、世界的に有名なヴィパッサナ瞑想センターの大伽藍が突如あらわれたりする。

丘のふもとに、ひと気のない公園があち、基壇の上にアウンサン將軍の座像がある。建国の聖地として作られたのだろうが、軍事政権時代にはかえりみられず、周囲には菓子の袋や弁当柄がちらかっていた。

もっとも私が最後に見たのは 2014 年のことで、その後アウンサン・スーチー政権樹立により、父將軍座像を中心に、アウンサン町全体が装いを新たにしていると想像される。ヤンゴン在住の方には定点観測をお勧めしたい。

(了)